



当社の社名「Delta-Fly」は
「Dragonfly（とんぼ）」に由来しています。

決算補足説明資料（2027年3月期 第1四半期）

2026年8月7日

Delta-Fly Pharma株式会社
(東証グロース:4598)

2027年3月期 第1四半期決算のサマリー

研究開発の取り組み

- 開発パイプライン6本のうち、5本が臨床試験中
- 各パイプラインの特許承認取得および申請、更新など選択と集中への取り組み中

パイプラインの進捗

- P-3(P-2/3含む)の取り組みとして、DFP-10917単剤、DFP-14323、DFP-17729
- P-2(P-1/2含む)の取り組みとして、DFP-10917+VEN、DFP-14927、DFP-11207

財務活動

- 資本金と資本準備金をその他資本剰余金に振替え、約115億円を繰越利益剰余金に振替え、繰越利益剰余金を増加させ、欠損のてん補を実施(5/15取締役会決議、8/3効力発生)
- 第12回新株予約権及び第3回無担保社債の発行を実施
(7/22:発行決議日、7/23:社債払込日、8/7:新株予約権払込日、効力発生日)

2027年3月期計画

- 開発パイプラインの臨床試験を着実に進めること
- フェーズの進んでいるパイプラインの導出交渉を進めること
- 財務体質の改善と強化に取り組むこと

2027年3月期 第1四半期 パイプラインの状況

開発品	開発段階	2027年3月期 第1四半期 研究開発の進捗状況
DFP-10917 (点滴静注剤) 急性骨髄性白血病 (再発・難治性)	P-3 試験終了 (米国)	DFP-10917単剤による条件付きNDA(新薬承認申請)に向けて、米国FDA(食品医薬品局)との協議のためのデータ等資料の準備を進めております
	P-1/2 試験中 VEN併用 (米国)	二次治療AML患者を対象とした臨床第3相試験の実施に向けて、米国FDAとの臨床第2相試験終了時相談(End of Phase 2 Meeting)のためのデータ等資料の準備を進めております
	P-1 試験中 (日本)	日本新薬による臨床第1相試験を継続
DFP-14323 (経口剤) 末期の肺がん	P-3 試験中 (日本)	国内約30施設で臨床第3相比較試験の症例登録を継続中
DFP-17729 (経口剤) 末期の膵臓がん	P-2/3 試験中(日本)	2026年5月に第2相部分の症例登録が完了しました - 症例のフォローアップを継続し、データ解析作業を進める見込みであり、その間、第3相部分の準備等を進め、速やかに臨床第3相試験に移行する予定です
DFP-11207 (経口剤) 胆道がん	医師主導治験 P-1/2試験中(日本)	2026年6月に第1例目の被検者登録があり、神奈川県立がんセンター、大阪国際がんセンター及び埼玉県立がんセンターにおいて、本格的に医師主導治験が開始しました

2027年3月期 第1四半期決算概要と2027年3月期予想・計画

損益計算書

事業収益の計上はなく、事業費用については主にDFP-10917関連の研究開発費※1、DFP-14323及びDFP-17729の症例登録増加に伴う研究開発費※2です。全体としては概ね予想どおりに着地しました。

(単位:百万円)

	2027年3月期	2026年3月期	増減(a-b)
	1Q実績(a)	1Q実績(b)	
事業収益	—	—	—
事業費用	420	358	62
研究開発費	365	285	80
一般管理費	54	73	△ 19
営業利益	△420	△358	△ 62
経常利益	△422	△366	△ 56
当期純利益	△422	△367	△ 55

※1 ① DFP-10917単剤
 ② DFP-10917+VEN

サブグループ解析・試験整理等
併用療法の臨床開発費用

※2 ① DFP-14323
 ② DFP-17729

臨床開発費用
臨床開発費用

貸借対照表

研究開発の進展に伴い、現預金減少・債務増加が生じていますが、想定内の計画的投資であります。
また、ライセンスの導出活動や新株予約権等による資金調達を推進し、財務規律を適切に維持しながら新たな資金確保を進めてまいります。

(単位:百万円)

■ 前期末との比較

	2027年3月期	2026年3月期	増減(a-b)
	1Q実績(a)	通期実績(b)	
流動資産	112	207	△ 95
現金及び預金	83	145	△ 62
その他	28	62	△ 34
固定資産	39	39	0
資産合計	150	246	△ 96
流動負債	346	212	134
負債合計	346	212	134
純資産合計	△ 196	33	△ 229
負債・純資産合計	150	246	△ 96

- 流動資産
研究開発投資の実行に伴い、現金及び預金残高は減少したものの、優先すべき研究開発に重点を置き進めたものです。
- 流動負債
主に未払金の増加によるものです。
これは、研究開発活動の進展に伴う計画的な投資を背景とした、正常な営業債務の増加です。
- 純資産
新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金は増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したものです。
(注) 2026年7月22日付けで第12回新株予約権及び第3回無担保社債の発行を行っており、現時点では純資産がマイナスとなっておりますが、今後、新株予約権の行使により、純資産はプラス方向への改善が見込まれます。

(単位:百万円)

	2027年3月期 1Q実績(a)	2027年3月期 予想 (b)	予算進捗率 (a/b)
事業収益	—	—	—
事業費用	420	1,330	32%
研究開発費	365	1,070	34%
一般管理費	54	260	21%
営業利益	△420	△1,330	32%
経常利益	△422	△1,340	31%
当期純利益	△422	△1,350	31%

今後の見通し

●事業収益

ライセンス導出に向けた活動を継続しているものの、交渉タイミング及び開発進捗の不確実性を考慮し、現時点では収益を織り込まない計画です。

●事業費用

第1四半期では研究開発進捗の過渡期により、事業費用は若干上回っております。今後は一部治験の完了に伴い、研究開発費は減少を見込むものの、重要パイプラインへの投資は継続していく予定です。

●主な研究開発計画

- DFP-10917+VEN併用：臨床第1/2相試験のフォローアップ、FDAとの第2相試験終了時相談及び第3相試験開始に向けた準備。
- DFP-10917単剤：FDAとの条件付き承認申請の可能性を含めた協議準備。
- DFP-14323：国内における臨床第3相試験(大規模比較試験)を継続する予定。
- DFP-17729：国内における臨床第2／3相試験の第2相部分が完了し、そのフォローアップを継続する予定。

後発事象

今回の資金調達は社債により即座に資金を調達しつつ、新株予約権により当面の研究開発費用を確保

当期ファイナンス進捗状況

資金使途

第12回
新株予約権
及び
第3回
無担保社債

約12.7億円調達の発行決議を実施
(7月22日の発行決議)
内、無担保社債として1.5億円の払込みは完了しております

<研究開発費>		
①DFP-10917+VEN併用	臨床第1/2相試験及び第3相試験	750百万円
②DFP-14323	臨床第3相試験	326百万円
③DFP-11207	胆道がんの医師主導治験	50百万円
④その他パイプラインの研究開発費、開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)特許関連費用等(登録・年金)		120百万円

本ファイナンスに際し、EVOLUTION JAPAN証券から提案を受けた第12回新株予約権及び第3回無担保社債をEVO FUNDに割当てするスキームが、社債により即座に資金を調達できることに加えて、株式ではなく、新株予約権を発行することから株価に対する一時的な影響を抑制しつつ資金調達をすることができ、全体として、当社の当面の資金需要を満たす資金を比較的早期にかつ相当程度高い蓋然性をもって調達できる設計となっているため、当社の今後の成長にとって最善であると判断しました。

当社は、2026年7月22日開催の取締役会において、2024年10月7日に発行した第9回及び2024年10月7日に発行した第11回新株予約権につきまして、2026年7月29日の取得日において、残存する第9回及び第11回新株予約権の全部を取得するとともに、2026年7月31日にその全部を消却いたしました。
なお、2026年7月31日付けの「(開示事項の経過)第三者割当による行使価額修正条項付第9回及び第11回新株予約権の取得及び消却の完了に関するお知らせ」をご参照ください。

2027年3月期の導出活動、財務活動の方針に変更はありません

導出活動

開発が進んでいるパイプラインを基本として
海外の製薬企業と積極的な交渉を進める

<導出活動>

- DFP-10917関連を中心に新たな提携先の獲得
- その他パイプラインの海外提携
- 共同開発も模索

財務活動

研究開発を推進するために、ライセンス活動
の深耕と機動性の高い資金調達を実施する

<財務活動>

- 導出活動による研究開発費の獲得と新たなスポンサーの獲得
- ファイナンス・ストラクチャーを検討し、機動性の高い資金調達活動を実行

- 本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 本資料は、当社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来に対する見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の結果が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



IRに関するお問い合わせ先

Delta-Fly Pharma株式会社 東京オフィス

E-mail info@delta-flypharma.co.jp

URL <https://www.delta-flypharma.co.jp/>